

令和元年度事業報告

社会福祉法人 ロザリオの聖母会
共同生活援助事業所
ナザレの家あさひ

1 概括

今年度は、高齢化や急な体調不良に伴い亡くなられた方が多い年であった。

その中でも20代の利用者さんの看取りも行った。2年前に余命宣告を受けて、関係者と共有しながら支援に当たり、最後は在宅酸素を使いながら暮らしていたが、年度半ばで永眠された。今までは高齢になられた方の看取り支援はあったが、まだ若い方の看取りは今回が初めてであり、家族への支援も含めて新たな経験になった。一方で、一人暮らしへの移行も2名あった。高齢化が進む一方で、グループホームから別の暮らし方を望む方もいらっしゃる、個々のニーズに併せて必要な支援を今後も心がけていきたい。

人材不足の問題については、外国人技能実習生の受け入れを行う事が決まった。今年度中に申請までは出来たため、来年度は面接や受入体制の整備、実際の受け入れは再来年度に入ってしまうかもしれないが、少しでも前進したことは大きいことだと言える。うまく活用できれば、安定的な人材の確保に繋がる可能性があるため、法人内の他事業所や実績のある他法人とも情報共有しながら進めていきたい。

最後に、年度末に差し掛かり世界的に起きた、新型コロナウイルスのパンデミックについては、今までの日常を一変させた出来事であった。防疫対策をかなり真剣に取り組んでいたつもりであったが、まだまだ不十分であったことも実感した。この状況はしばらく続いていくと考える。事業の性質上、どのような事があっても停止が出来ないサービスである。また、建物の構造によっては一人でも感染をしてしまうと、他利用者さんのリスクもかなり高くなってしまう事も想定できる。支援の仕方によっては、支援者がホーム内はもちろん、他のホームへも感染を広げてしまうこともある得るため、徹底した感染予防対策を行うとともに、感染してしまった際の対策についての細かい検討を引き続き行っていきたい。

2 施設（事業所）所在地 千葉県旭市野中4017

3 施設（事業所）開設年月日 平成18年10月1日

4 沿革

1996年（平成8年）	4月 1日	福祉ホーム野中ハイツ開設	定員10名
1997年（平成9年）	1月23日	若衆内ハウス開設	定員15名
2003年（平成15年）	4月 1日	横大道ハウス開設	定員21名
2004年（平成16年）	10月 1日	中川ハウス開設	定員25名
2004年（平成16年）	11月 1日	萩園ハウス開設	定員29名
2005年（平成17年）	5月 1日	東足洗ハウス開設	定員34名
2005年（平成17年）	9月 1日	立野ハウス開設	定員38名
2006年（平成18年）	4月 1日	グループホーム支援室開設	
2006年（平成18年）	10月 1日	ケアホーム旭・グループホーム旭事業所指定 共同生活介護・共同生活援助事業開始 野中ハイツ 福祉ホームからグループホーム に変更 東町ハウス開設	定員44名
2007年（平成19年）	4月 1日	大割ハウス開設	定員49名
2007年（平成19年）	7月 1日	グループホーム支援センター開設 荒井 隆一が所長となる	
2007年（平成19年）	8月 1日	対馬ハウス開設	定員53名

2008年(平成20年)	3月	1日	下立ハウス開設	定員58名
2008年(平成20年)	7月	1日	東町ハウス転居	広原ハウスに改名
2009年(平成21年)	4月	1日	野中ハイツ定員10名から、野中ハイツⅠ定員5名・野中ハイツⅡ定員5名に変更。	
2009年(平成21年)	9月	1日	生沼ハウス開設	定員61名
2011年(平成23年)	6月	1日	矢指ハウス開設	定員65名
			震災に伴い立野ハウス転居(廃止)	
			西足洗ハウス開設	
2012年(平成24年)	1月	1日	小割ハウス開設	定員67名
2012年(平成24年)	2月	1日	仲町ハウス開設	定員72名
2012年(平成24年)	5月	7日	下立ハウス	震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	6月	7日	野中ハイツ	震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	11月	5日	若衆内ハウス	世話人室・喫煙室増設
2014年(平成26年)	3月	27日	中川ハウス・対馬ハウス・東足洗ハウス・菽園ハウス	自動火災報知設備設置
2014年(平成26年)	3月	31日	下立ハウス	スプリンクラー設備整備
2014年(平成26年)	4月	1日	折戸ハウスⅠ開設	定員77名
2014年(平成26年)	4月	1日	折戸ハウスⅡ開設	定員82名
2014年(平成26年)	7月	16日	横大道ハウス	定員6名から定員7名に変更 定員83名
2015年(平成27年)	2月	1日	横大道ハウス	定員7名から定員6名に変更 定員82名
2015年(平成27年)	2月	1日	折戸ハウスⅠ	定員5名から定員6名に変更 定員83名
2016年(平成28年)	7月	1日	仲才ハウス開設	定員92名
2017年(平成29年)	3月	31日	横大道ハウス・中川ハウス・対馬ハウス	スプリンクラー設備整備
2017年(平成29年)	5月	1日	仲町ハウス廃止	
			川間ハウス開設	定員90名
2018年(平成30年)	2月	22日	菽園ハウス・東足洗ハウス・矢指ハウス	スプリンクラー設備整備
2018年(平成30年)	8月	1日	上宿ハウス開設(サテライト型)	定員91名

5 実施事業及び利用者数

5-1 第2種社会福祉事業

(1) 共同生活援助事業

5-2 障害者総合支援法による指定事業

(1) 共同生活援助事業(介護サービス包括型)

(定員91名、令和2年3月31日現在の利用者数：78人)

- ア 野中ハイツⅠ(定員男性5人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市野中3622-2
- イ 野中ハイツⅡ(定員女性5人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市野中3622-2
- ウ 若衆内ハウス(定員男性5人、令和2年3月31日現在の利用者数：5人)
千葉県旭市ニ3500-11
- エ 横大道ハウス(定員男性6人、令和2年3月31日現在の利用者数：5人)

- 千葉県旭市三川横大道7542-2
- オ 中川ハウス（定員男性4人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県野中4070-2
- カ 萩園ハウス（定員女性4人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市萩園1250-4
- キ 東足洗ハウス（定員男性5人、令和2年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市東足洗2277-1
- ク 西足洗ハウス（定員男性4人、令和2年3月31日現在の利用者数：3人）
千葉県旭市西足洗562-56
- ケ 広原ハウス（定員男性6人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中4075-4
- コ 大割ハウス（定員女性5人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中3811
- サ 対馬ハウス（定員4人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中4070-2
- シ 下立ハウス（定員男性5人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中3625-1
- ス 生沼ハウス（定員女性3人、令和2年3月31日現在の利用者数：3人）
千葉県旭市イ1694-8
- セ 矢指ハウス（定員4人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中3811-2
- ソ 小割ハウス（定員男性2人、令和2年3月31日現在の利用者数：1人）
千葉県旭市野中3850-6
- タ 川間ハウス（定員男性3人、令和2年3月31日現在の利用者数：3人）
千葉県旭市萩園1889
- チ 折戸ハウスⅠ（定員6人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中3985-4
- ツ 折戸ハウスⅡ（定員5人、令和2年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中3985-4
- テ 仲才ハウス（定員9名、令和2年3月31日現在の利用者数：8人）
千葉県旭市ニ2491-1
- ト 上宿ハウス（定員1名、令和2年3月31日現在の利用者数：1人）

6 職員構成

別紙1のとおり（令和2年3月31日現在の職員数）

7 組織図

別紙2のとおり（令和2年3月31日現在の組織図）

8 令和元年度重点目標実施報告

8-1 運営管理

福祉・医療の情勢や動向を注視しつつ施設・事業所の安定的運営に努めるについて

(1) 制度改正など諸情勢を踏まえた施設・事業所の課題と展望について

利用人数やホーム数の増加に伴い今年度より、事務所職員のグループ化を行った。個別のホームの担当だけではなく、3つのグループに分けることにより、職員個々の負担を減らせればと取り組みを始めた。試行錯誤しながら少しずつではあるが、業務の整理には繋がっていると感じる。

10月に行われた報酬改定においては、微量ながらのプラス改定となった。ただ今回の改定は消費税の増税に伴うことが主であることと、前回の改定で下げられる前には戻ってもいないため、令和3年度に行われる3年に一度の改定に向けて必要な提言を行っていききたい。

人材不足の問題については、年度末に来て数名の学生の非常勤登用が続いた。職員内からの口コミからであったが、今後の社会情勢を考えると、さらなる雇用獲得の機会が増えていくことが期待される。その際には、より良い労働環境の整備をしておくことがより良い人材の確保に繋がるため、しっかりと考えていきたい。

(2) 人材の確保、定着、育成の推進について

外国人技能実習生の活用や、新型コロナウイルスのパンデミックによる失業率の上昇など、今後は人材不足解消に少し光が見えてきたように感じる。しかし、雇用は出来ても定着していかなければ意味がなく、そのためには事業所単体を超えて法人全体で取り組んでいかなければならないと考える。特に育成に関しては、それぞれの事業所が役割分担をしながら育成を行っていくことが重要であると考えている。

(3) コンプライアンス（法令遵守）の徹底について

ハウスミーティング、世話人会議、事務所ミーティング、虐待防止委員会などでの確認を行い、必要なことに関しては、毎月の経営会議にて報告を行った。

(4) 堅確な財務規律と内部管理体制の確立について

ア 様々な障害を抱えた利用者の望む暮らしに寄り添った質の高いサービスを提供するため、資金の確保、運用、予算管理など、健全で安定した運営に努めた。

イ 社会福祉法人会計基準や各種規程、事業計画等に基づいた財務運営を心掛け、会計監査人による監査を通じ、適正かつ無理無駄のない財務内容の充実を図った。

また、今年度10月に施行された消費税率の改正や、9月から10月にかけて発生した自然災害による被害など不測の事態においても、常に法人本部等と連携し、適正且つ円滑な管理体制の確率と会計処理など、柔軟に対応出来るよう努めた。

ウ 財務情報や事業報告、県や健康福祉センターなどから求められる利用実績等については、事業内容や経営状況など、法人や事業所のホームページ等を活用して情報公開していくよう心掛けた。

8-2 利用者サービス

社会福祉法人に求められる課題を踏まえつつ利用者等のサービスの質向上に努めることについて

(1) 虐待防止、差別解消や合理的配慮など利用者の人権尊重に向けた取り組みについて
世話人会議において、法人の理念、倫理綱領について確認した。研修として、虐待防止、差別解消や合理的配慮に関するロールプレイ。障害者虐待防止と障害者差別解消についてのDVDを使用した研修も実施し、各制度の理解と自己啓発に努めていった。虐待防止委員会を定期開催し、各ハウス内において虐待防止や差別解消に該当する事案が発生していないか、振り返っていった。利用者や家族等からの相談について、誠意を持って対応している。

(2) 利用者の立場に立った福祉サービスの実施について

各種ミーティングを開催し、利用者を中心にしたサービスの改善に取り組んだ。利用者の生活が変化する場面では、担当職員と利用者だけで支援の方向性を組み立てるのではなく、外部機関の協力を得て、利用者のより良い暮らしを考えていった。

世話人会議を概ね月1回開催し、職員の質向上を図っていった。外部研修については、時代のニーズに即した研修に参加し、現場の支援に活かしていった。

(3) 福祉サービスの一層の充実を目指した生活環境・利用環境の向上について

ア 建物の老朽化等による対策等

中川ハウス・対馬ハウス 屋根外壁等改修工事

中川ハウス、対馬ハウスの建物は、建築後16年が経過し、屋根や外壁、居室、リビングなど建物の内部において老朽化が目立ち、柱と壁の隙間や天井のたわみなど、東日本大震災時の被害とも考えられる損壊箇所も認められるため改修工事を計画した。

なおこの計画については、工事に係る費用が250万を超えることが見込まれたため、理事会において計画の承認と契約方法に関する諸手続きなどを審議したうえで、工事を施工した。

令和元年. 5. 30 第222回理事会 計画、予定価格、業者選定について

令和元年. 7. 24 第224回理事会 契約について

令和元年. 8. 8 契約(株式会社伊藤工務店)

令和2年. 2. 8 完了

当該工事の設計監理業務については、佐藤建築設計室と契約を締結した。

令和元年. 4. 11 契約

工事金額 11,440,000円

設計監理料 475,200円

合計 11,915,200円(自己資金)

イ 公用車及び備品の購入

①公用車の購入

ナザレの家あさひでは平成27年に法人内他事業所から移管された日産キャラバンを(平成21年登録/総走行距離20万km超)使用していたが、老朽化が著しいことから新規に購入した。

令和元年. 5. 30 第222回理事会 車両整備について
令和元年. 5. 30 発注 (千葉日産自動車株式会社)
令和元年. 7. 26 納車

購入金額 2, 727, 832円 (自己資金)

②備品の購入

令和元年9月と10月の台風被害において、数日に及ぶ停電により利用者の生活に多大な影響が出た。当時は酸素吸入を要する利用者もおり、今後の事業運営においてもライフライン(電源)の確保は必要不可欠と考えられるため発電機2台を購入した。

ウ 各ハウスの設備整備や改修等

利便性や快適性を考慮するとともに、利用者の暮らしやすさに配慮した修繕や改修について、本人及び関係者と相談し、出来る限り速やかに整備や修理を実施できるよう心掛けた。

また、自然災害による修繕工事として、令和元年9月に発生した台風15号により、生沼ハウスの屋根瓦が破損してしまつたため修理を行っている。

令和元年. 10. 3 決裁
令和元年. 10. 3 発注 (株式会社伊藤工務店)
令和元年. 10. 31 完了

工事金額 132, 000円 (自己資金)

エ 防災対策に関する整備

自動火災報知設備・火災通報装置設備設置工事

野中ハイツI・II、西足洗ハウス、小割ハウス、大割ハウス、生沼ハウスの計5ヶ所のグループホームにおいて、消防法令に従い、自動火災報知設備・火災通報装置設備の設置を行った。

【野中ハイツI・II】

令和元年. 8. 5 決裁
令和元年. 8. 5 契約 (有限会社山崎防災設備)
令和元年. 8. 19 完了

工事金額 797, 040円 (自己資金)

【西足洗ハウス】

令和元年. 8. 5 決裁
令和元年. 8. 5 契約 (有限会社山崎防災設備)
令和元年. 8. 29 完了

工事金額 425, 520円 (自己資金)

【小割ハウス】

令和元年. 8. 27 決裁
令和元年. 8. 29 契約（有限会社山崎防災設備）
令和元年. 9. 13 完了

工事金額 374,976円（自己資金）

【大割ハウス】

令和元年. 8. 27 決裁
令和元年. 8. 29 契約（有限会社山崎防災設備）
令和元年. 9. 19 完了

工事金額 471,960円（自己資金）

【生沼ハウス】

令和元年. 8. 27 決裁
令和元年. 8. 29 契約（有限会社山崎防災設備）
令和元年. 9. 19 完了

工事金額 401,760円（自己資金）

オ 地域のニーズに合わせたサービスの展開を図るについて

ファミリーホーム（小規模住居型養育事業）の視察を検討していたが行えていない。学齢期からの生活の移行に伴うニーズへの対応については、海匝圏域の設置者会において、定期的に検討を行う仕組みが出来てきた。

8-3 安全衛生対策

法人の総合的な安全衛生対策の向上を図るについて

(1) 防災・防犯対策の向上と交通事故防止対策について

年2回の防災訓練と法人合同防災訓練を実施した。避難訓練の際には、ターポリン担架の使用、火災報知器を実際に鳴らす等して、実践的な訓練になるように心がけた。内容として、日中、夜間想定、地震津波、火災等、様々な場面を想定し実施した。世話人会議において実際に災害や火災が発生した場合、どのような初動や避難行動を取っていくか、シュミレーションを行い、防災訓練に望んでいった。

3月に実施した防災訓練は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、消防署の立ち会いを依頼せず実施した。

消防設備の点検については、防災設備会社と契約し年2回の点検を行った。

(2) 利用者等安全衛生対策の向上について

虐待防止委員会において事故報告書・ヒヤリ・ハット・利用者メモを分析し、誤嚥や転倒等の防止策を検討していった。

世話人会議において外部講師を招き、生活習慣病の予防と食事の提供形態について、利用者の高齢会への対応について取り上げ、重度化・高齢化への備えを進めていった。

職員の健康診断を年度始めに実施した。O-157などの保菌検査やインフルエンザ

の予防接種もおこなっている。

(3) 職員の労災事故防止、メンタルヘルスとハラスメント対策の向上について

世話人会議において、腰痛軽減を目的に腰痛軽減労働体操や介護技術に関する研修を実施し、労働災害防止に努めていった。身体介護の負担の多いホームでは、定期的に介護用リフター等の福祉機器の使用方法を確認する機会を設けた。腰痛に対する研修や介護方法の確認等を行っていったが、今年度も腰痛のため勤務を休む職員があった。次年度以降も介護予防に取り組んでいきたい。

メンタルヘルスについては、精神面の負担が強いときには個別に面接を行うなどして対応を行っていった。

ワークライフバランスについては全職員年間5日以上の有給休暇取得を達成した。次年も有給休暇取得率向上を目指していききたい。また、今年度より職員のライフスタイルに合わせた働き方に近づけるよう、勤務希望を取り始め、個人の生活に配慮した勤務調整を心掛けていった。

(4) IT・情報管理対策の向上について

利用者の状態変化や急変時の備えとして、またハウス内での事務処理として、タブレット端末を2箇所ของกลุ่มホームに設置し試行していった。

スマートフォンのアプリであるグーグルサービスの利用を開始し、職員のスケジュール管理や事業所内の情報共有のツールとして活用した。

ウイルス等の感染対策として、覚えのないアドレスからのメールを開かず破棄するよう徹底し、USBメモリ等の使用制限を法人全体で行った。

また、利用者の個人情報外部からの人間にみられないよう、保管場所や保管方法についての確認・徹底を事業所内で行った。

9 1年のあゆみ

- 31. 4. 1 辞令交付式
- 4. 13 いちご狩り
- 4. 25～26 対馬ハウス一泊旅行（浦安市）
- 5. 23～24 野中ハイツI一泊旅行（群馬県）
- 6. 15 安全運転講習会
- 6. 26～27 大割ハウス一泊旅行（神奈川県）
- 6. 12～14 全ホーム防災訓練
- 6. 12～14 国サービス管理責任者研修
- 7. 1～2 横大道ハウス一泊旅行（福島県）
- 7. 27 夕涼み会
- 8. 25 ミュージックフェスティバル
- 9. 4 合同防災訓練
- 10. 2 創立記念行事
- 11. 9・10 第16回日本グループホーム学会・東京大会
- 12. 7 障害者週間行事
- 12. 21 もちつき大会
- 1. 25 千葉県障害者グループホーム大会
- 2. 1. 6 新年あいさつ会

- 3. 7 合同研修発表会
- 3. 16～19 全ホーム防災訓練

Ⅱ 利用者の概要

1 ナザレの家あさひ

1-1 利用者の平均年齢
59.6歳

1-2 日中活動の状況
就労 1人、生活介護施設 20人、就労継続B型施設 16人
高齢者デイサービス 3人、その他 38人
移動支援 18人、行動援護 2人、重度訪問介護 3人、身体介護 2人
*重複あり

1-3 出身地の状況
旭市 22人、香取市 2人、匝瑳市 5人、山武市 3人
千葉市 4人、銚子市 17人、東金市 1人、東庄町 2人、船橋市 3人
四街道市 1人、横芝光町 2人、茂原市 2人、勝浦市 1人、市川市 1人、
多古町 1人
東京都（江東区 3人、渋谷区 1人、台東区 1人、江戸川区 1人
中央区 1人、板橋区 1人、目黒区 1人）
茨城県 1人、埼玉県 1人
計 24区市町

1-4 障害支援区分
非該当 3人、区分2 14人、区分3 20人
区分4 19人、区分5 12人、区分6 10人
平均障害支援区分 3.64

1-5 入退去の状況
入居 1名
在宅より 1名

退去 9名
一人暮らし 2名
逝去 6名
その他 1名

2 ホーム別概要

2-1 野中ハイツI

(1) 利用者の年齢
47歳 1人、67歳 1人、69歳 1人、60歳 1人
平均年齢 60.7歳

- (2) 日中活動の状況
就労継続 B 型施設 1 人、 その他 3 人
 - (3) 出身地の状況
旭市 2 人、 銚子市 1 人、 匝瑳市 1 人
 - (4) 障害支援区分
区分 4 1 人、 区分 2 1 人、 区分 3 2 人
- 2-2 野中ハイツⅡ
- (1) 利用者の年齢
55 歳 1 人、 62 歳 2 人、 64 歳 1 人
平均年齢 60.7 歳
 - (2) 日中活動の状況
就労 B 型就労施設 1 人 その他 3 人
 - (3) 出身地の状況
旭市 2 人、 銚子市 1 人、 匝瑳市 1 人
 - (4) 障害支援区分
区分 2 2 人、 区分 3 2 人
- 2-3 若衆内ハウス
- (1) 利用者の年齢
33 歳 1 人、 45 歳 1 人、 69 歳 1 人、 70 歳 2 人
平均年齢 57.4 歳
 - (2) 日中活動の状況
その他 3 人、 就労継続 B 型施設 2 人
 - (3) 出身地の状況
旭市 1 人、 東庄町 1 人、 茂原市 1 人、 銚子市 1 人、 東京都 1 人
 - (4) 障害支援区分
非該当 1 人、 区分 3 3 人、 区分 4 1 人
- 2-4 横大道ハウス
- (1) 利用者の年齢
40 歳 1 人、 53 歳 1 人、 57 歳 1 人、 61 歳 1 人、 63 歳 1 人
平均年齢 55 歳
 - (2) 日中活動の状況
就労継続 B 型施設 2 人、 生活介護施設 3 人
 - (3) 出身地の状況
旭市 3 人、 銚子市 2 人
 - (4) 障害支援区分

区分4 3人、区分5 2人

2-5 中川ハウス

(1) 利用者の年齢

43歳 1人、49歳 1人、63歳 1人、69歳 1人

平均年齢 56歳

(2) 日中活動の状況

生活介護施設 3人、その他 1人

(3) 出身地の状況

香取市 1人、匝瑳市 1人、山武市 1人、船橋市 1人

(4) 障害支援区分

区分5 2人、区分6 2人

(2-6 萩園ハウス

(1) 利用者の年齢

43歳 1人、44歳 1人、54歳 1人、72歳 1人

平均年齢 53.2歳

(2) 日中活動の状況

就労 1人、生活介護施設 2人、高齢者デイサービス 1人

(3) 出身地の状況

旭市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、四街道市 1人

(4) 障害支援区分

区分4 1人、区分5 3人

2-7 東足洗ハウス

(1) 利用者の年齢

42歳 1人、44歳 1人、58歳 1人、67歳 1人、74歳 1人

平均年齢 57歳

(2) 日中活動の状況

生活介護施設 5人

(3) 出身地の状況

匝瑳市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、東金市 1人、旭市 1人

(4) 障害支援区分

区分5 2人、区分6 3人

2-8 西足洗ハウス

(1) 利用者の年齢

61歳 2人、80歳 1人

平均年齢 67.3歳

- (2) 日中活動の状況
高齢者デイサービス 1人、その他 2人
 - (3) 出身地の状況
山武市 1人、銚子市 1人、船橋市 1人
 - (4) 障害支援区分
区分2 1人、区分3 1人 区分4 1人
- 2-9 広原ハウス
- (1) 利用者の年齢
43歳 1人、66歳 1人、68歳 1人、71歳 1人
平均年齢 62歳
 - (2) 日中活動の状況
生活介護施設 1人、その他 3人
 - (3) 出身地の状況
旭市 1人、銚子市 2人、船橋市 1人
 - (4) 障害支援区分
区分3 2人、区分4 2人
- 2-10 大割ハウス
- (1) 利用者の年齢
48歳 1人、68歳 1人、80歳 1人、91歳 1人
平均年齢 71, 7歳
 - (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 3人
 - (3) 出身地の状況
旭市 1人、東京都 2人、茨城県 1人
 - (4) 障害支援区分
非該当1人、 区分2 1人、区分4 2人
- 2-11 対馬ハウス
- (1) 利用者の年齢
58歳 1人、67歳 1人、83歳 2人
平均年齢 72.7歳
 - (2) 日中活動の状況
生活介護施設 2人、高齢者デイサービス 1人 その他、1人
 - (3) 出身地の状況
旭市 2人、埼玉県 1人、東京都 1人
 - (4) 障害支援区分

区分5 1人、区分6 1人、区分4 1人、区分3 1人

2-12 下立ハウス

(1) 利用者の年齢

49歳 1人、52歳 1人、61歳 1人、71歳 1人

平均年齢 58.2歳

(2) 日中活動の状況

就労継続B型施設 1人、その他 3人

(3) 出身地の状況

銚子市 1人、香取市 1人、千葉市 1人

横芝光町 1人

(4) 障害支援区分

区分3 2人、区分4 1人、区分6 1人

2-13 生沼ハウス

(1) 利用者の年齢

46歳 1人、54歳 1人、69歳 1人

平均年齢 56.3歳

(2) 日中活動の状況

就労継続B型施設 1人、その他 2人

(3) 出身地の状況

旭市 3人

(4) 障害支援区分

区分4 2人、区分3 1人

2-14 矢指ハウス

(1) 利用者の年齢

46歳 1人、55歳 1人、60歳 1人、69歳 1人

平均年齢 57.5歳

(2) 日中活動の状況

就労継続B型 1人、生活介護施設 1人、その他 2人

(3) 出身地の状況

旭市 2人、銚子市 1人、茂原市 1人

(4) 障害支援区分

区分4 1人、区分6 3人

2-15 小割ハウス

(1) 利用者の年齢

33歳 1人

平均年齢 33.0歳

(2) 日中活動の状況
就労継続B型(週1日午前中のみ) 1人

(3) 出身地の状況
銚子市 1人

(4) 障害支援区分
区分5 1人

2-16 川間ハウス

(1) 利用者の年齢
62歳 1人、71歳 1人、74歳 1人
平均年齢 69歳

(2) 日中活動の状況
その他 3人

(3) 出身地の状況
勝浦市 1人、市川市 1人、東京都 1人

(4) 障害支援区分
区分2 2人、区分3 1人

2-17 折戸ハウスI

(1) 利用者の年齢
53歳 1人、62歳 1人、70歳 1人、74歳 1人
平均年齢 64.8歳

(2) 日中活動の状況
その他 4人

(3) 出身地の状況
多古町 1人、東京都 1人、千葉市 1人、銚子市 1人

(4) 障害支援区分
区分2 1人、区分3 1人、区分4 1人、非該当 1人

2-18 折戸ハウスII

(1) 利用者の年齢
33歳 1人、47歳 1人、63歳 1人、69歳 1人
平均年齢 53歳

(2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 3人、その他 1人

(3) 出身地の状況
旭市 2人、匝瑳市 1人、山武市 1人

(4) 障害支援区分
区分2 2人、区分3 2人

2-19 仲才ハウス

- (1) 利用者年齢
26歳 1人、34歳 1人、62歳 1人、63歳 1人、70歳 1人
71歳 1人、76歳 1人、77歳 1人
平均年齢59.8
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 2人、生活介護 1人、その他 5人
- (3) 出勤地の状況
東京都 3人、横芝光町 1人、銚子市 1人、旭市 2人、東庄町 1人
- (4) 障害支援区分
区分2 5人、区分3 1人、区分4 1人、区分5 1人

2-20 上宿ハウス

- (1) 利用者年齢
34歳 1人
平均年齢34.0歳
- (2) 日中活動の状況
その他 1人
- (3) 出身地の状況
銚子市 1人
- (4) 障害支援区分
区分2 1人

Ⅲ 支援の概要

1 日課等

利用者個々の状況に合わせて、以下の支援の提供を関係者と協力しながら行った。

- (1) 利用者に対する相談
- (2) 食事の提供
- (3) 健康管理・金銭管理の援助
- (4) 余暇活動の支援
- (5) 緊急時の対応
- (6) 職場等との連絡・調整
- (7) 財産管理等の日常生活に必要な援助
- (8) 食事や入浴、排せつ等の介護等
- (9) 体験利用

2 部門別報告

2-1 管理者・サービス管理責任者

- (1) 今年度は退去者が続いたことにより、予定よりも収入の減額が目立ってしまった。新規の利用相談はあっても、退去直後に利用に結びつくことは難しいため、どうしてもタイムラグがうまれてしまう。サービスの性質上、どうしてもそこは仕方がない部分があるため、出来る時の積立などを心がけたい。
- (2) 人事考課制度を通して、職員の目標設定の確認や業務の課題などを確認した。
- (3) 台風15号、19号上陸。新型コロナウイルス発生等様々な自然災害が発生した法人本部と連携し、困難な問題について対応していった。
- (4) 職員数も多いため、職員間のメンタルケア及びスーパーバイズに重点を置いた。
- (5) 他機関との連絡会を通して、情報共有を行い、利用者が主体的に暮らしていけるように支援していった。
- (6) 職員不足を解消するために、例年社会福祉士の実習受け入れを行ってきたが、担当変更に伴い、実習生の受け入れが叶わなかった。実習生の受け入れは達成できなかったが、ナザレの家あさひで雇用する職員のロコミで、学生2名の雇用に結びついた。これをきっかけに雇用促進に結びつけていきたい。また、城西国際大学学生に対し、アルバイトの広告を配布している。

2-2 世話人・生活支援員

- (1) 法人内外の関係事業所と連携して定期的な会議を行い、個別支援計画に基づき利用者への支援方法を統一して支援を行った。
- (2) 人事考課及び状況に応じて個別に話し合いを行い、意思疎通を図った。
- (3) 法人内外の研修会に参加して、技術の向上に努めた。
- (4) 総合的な安全対策の構築に努めた。
- (5) 外部研修へ職員が積極的に参加できるようにし、利用者への理解や支援の質の向上がされるよう努めた。
- (6) 世話人会議において、職員の意識や支援の質を向上するように努めた。また、法人理念や事業所で大切にしていることを確認し、支援者としてめざすべき方向性を確認した。
- (7) 他職種、関係機関と連携して、適切な支援を実施するように努める。
- (8) 虐待防止法の理解を世話人会議で促し、各ハウスミーティングにおいて虐待防止について振り返りを行ったり、金銭管理の複数チェックを行い、虐待予防に努めた。また、労働環境や対人ストレスが高いホームについては支援者が抱かえこまない支援体制を築いていくように努めた。
- (9) 高齢化に伴い、転倒する機会が多くなったり新たな疾患を発症する利用者が増え、身体機能低下と健康への配慮をして事故や病気を予防するよう努めた。
- (10) 世話人会議において「利用者の高齢化への対応」というテーマを世話人と考える機会を設け、利用者の多様なニーズに対応できるように努めた。

2-3 看護師

- (1) 各ハウスを定期訪問し、利用者の健康状態の把握に努めた。
- (2) ロザリオ訪問看護ステーション・ソフィアと医療連携を行っていく上で、情報共有を行っていった。
- (3) 利用者の状況に合わせて関係医療機関への受診・検査・入退院の対応を行った。
- (4) 感染症及び高齢化による生活習慣病の予防に努めた。

2-4 事務員

- (1) 事業所の窓口として、身だしなみやマナー、言葉遣いなどに気を配ると共に、出来る限り冷静な判断と対応をするよう心掛けた。
- (2) 事業所内外のコミュニケーション向上及び連携への取り組みとして、情報の共有と、報告、連絡、相談及び確認の徹底に努めた。また必要に応じて業務分掌の見直しを実施し、正確で効率的な事務業務が行えるよう心掛けた。
- (3) 利用者及び家族や関係者の要望を的確にとらえるとともに、わかりやすい説明と同意・納得していただけるような丁寧な対応に努めた。
- (4) 利用者の金銭管理について、利用者預かり金管理規定（内規）に従い、不適切な事例が生じないよう細心の注意を払う。また、昨年度導入したEBサービスを有効活用できるように関係者間で連携し、不能事案が生じないよう努めた。
- (5) 建物や設備整備等について、昨年度に引き続き、利用者が安全かつ快適に暮らせるよう、保全や老朽化対策、防災対策に伴う改修や設備整備等を都度行った。また、事業所の公用車の老朽化に伴う車両の買替を行った。
- (6) 今年度、利用者の入院や外泊などに加え、6名の方が逝去、3名の方が退居されたため、収入が下方修正をすることになった。収支のバランスに不均衡が生じることがないように、資金の確保と適正な運用、徹底した予算の管理など、財務をはじめ、会計、経理、その他の事務業務についてもよりの確な処理を心掛け、運営に支障をきたすことがないように努めた。

2-5 野中ハイツ I

- (1) 利用者の高齢化が進んできているため、関係者での情報共有など、病状の変化に対応できる体制を整えた。
- (2) 月に一度利用者とのミーティングを行い、利用者が行きたい場所を決めた。外食や外出する機会を全員が楽しみにしている。また、毎週水曜日の買い物同行支援（食品 日用品）を行った。
- (3) 年に一度の一泊旅行を企画し実施した。
- (4) 精神症状崩れ2名入院。医療保護入院1名。任意入院1名。3月18日に1名退院される。
- (5) 1月1名逝去。浴槽内にて発見され、救急搬送されるが息が戻らなかった。心不全疑いであった。

2-6 野中ハイツ II

- (1) 一人一人個性があり、利用者間のトラブルも多いが、一つ一つ向かい合い納得できるように支援を行なった。
- (2) 利用者ミーティングを継続し、利用者が考えている不安や不満のはけ口、受け皿になっている。
- (3) 服薬管理の必要な利用者2名については、引き続き支援を行なっているが、自己管理には至っていない。
- (4) 精神症状が安定せず精神科病院へ1名が入院した。

2-7 若衆内ハウス

- (1) 毎月一度の利用者ミーティングを行い、利用者の行きたい場所を決めた。外食や外出する機会をもち、生活の楽しみを感じることが出来ている。
- (2) 地域活動の一環として、町内会の溝掃除に利用者とともに参加していった。
- (3) 喫煙者がいるため、喫煙場所での喫煙を繰り返し依頼し、火事の予防に努めた。

2-8 横大道ハウス

- (1) 町内会への参加や近隣住民への挨拶等、地域交流は継続して行った。
- (2) 土日の余暇活動について、一人で買い物に出かける事が難しくなっている利用者があり、移動支援のヘルパーを利用している。
- (3) 利用者1名については、ほぼ毎日夕方外出をしており、時折警察の方に迷惑を掛けることがあったが、事故等がないよう注意喚起し大きな問題は発生しなかった。
- (4) 世話人・ハウス担当で月1回ミーティングを行い、情報共有し支援を行った。
- (5) 一泊旅行を企画し、利用者全員で行くことが出来た。
- (6) 1名逝去。近隣病院へ通院しながらハウス内にて支援を続けてきたが、1月多臓器不全のため入院する。入院を続けていたが、肝硬変により3月に息を引き取る。

2-9 中川ハウス

- (1) 重度知的障害のある利用者が入居しており、複数の支援者や事業者が関わっているため、毎月のミーティングや日中活動先との連絡会において情報共有し、支援を行った。
- (2) 加齢によるADLの低下で転倒を繰り返す利用者に対して、見守りをしっかりと行い支援にあたった。
- (3) 体調面に変化があった利用者があり、受診などを行い、他機関と連携しながら医療的ケアを行った。

2-10 萩園ハウス

- (1) 週末は移動支援のヘルパーを活用し、プール教室や買い物、散歩など個別の関わりを大切に行うことができた。
- (2) 食材宅配サービスだけではなく、状況によっては利用者の希望に合わせた献立を提供することができた。
- (3) 複数の世話人が交替で支援をしている為、月1回のミーティングを行い支援の確認を行った。
- (4) 備品の老朽化、故障などでIH調理器を交換した。
- (5) 高齢の利用者もいる為、バランスの良い食事や運動を心がけた。

2-11 東足洗ハウス

- (1) 現在、5名の利用者全員が他法人の生活介護事業所を利用しており、密に連絡をとりあいながら支援を行った。
- (2) 利用者の希望の献立で誕生日会ができた。
- (3) 日々のバイタルチェックを行い、医療機関や日中活動先と連携して、健康状態の確認を行った。
- (4) 今年度も地域のイベント等へ参加し、地域との交流を継続して行った。来年度も継続していきたい。
- (5) 備品の老朽化、故障などで、電化製品を交換した。

2-12 西足洗ハウス

- (1) 近隣住民との関係は、利用者自身で挨拶や日常的な会話を積極的に行っている。
- (2) 入居者同士のトラブルも時折見られるが、職員が介入にて改善している。
- (3) 男性が3人入居しているが、お互い協力しあい生活できている。また、月1回の食事会・外出を継続して行っている。
- (4) 旅行へ行きたいと希望があり、実施していった。
- (5) 利用者の高齢化によりバランスの良い食事・運動・健康面のケアを行った。また本人の状態に合わせた支援を行った。

- (6) 一人の利用者が高齢者デイサービスに通い始めた。通所を継続するにあたり、医療機関やデイサービスと連携し、健康状態の把握に努めてた。

2-13 広原ハウス

- (1) 当初の予定では遠方への外出を企画していたが、外出を計画していた利用者が逝去されたことにより、今年度の外出がなくなった。来年度希望される利用者があった場合企画していきたい。
- (2) 8月1名逝去。食道硬化により服薬が出来ず精神症状が現れ、近隣精神科病院に入院する。入院中に腹膜炎を発症し、救急搬送されるが、搬送先の病院にて息を引き取る。1月1名逝去。夕食の際に呼吸が止まってしまい、救急搬送されるが、搬送先の病院にて息を引き取る。
- (3) 健康管理が必要な利用者が増えているため状態に合わせて支援を行った。

2-14 大割ハウス

- (1) 今年度も計画通り、神奈川県に一泊で旅行へ行く事ができた。月1回の食事会も継続して行った。
- (2) 利用者の高齢化に伴い、体調不良等による通院や入院が増えた。事業所内で最高齢の利用者もいるため、体調の変化に気をつけ、支援を行った。

2-15 対馬ハウス

- (1) 日中活動先・通院先が利用者ごとに複数あり、連絡調整について不備がないように支援を行った。
- (2) 1泊旅行に利用者全員で参加できた。
- (3) 利用者の些細な変化に注意し、その対応方法を関係機関と連携して調整対応した。
- (4) 身体障害のある利用者のADLが著しく低下傾向のため誤嚥予防や転倒防止に努めた。
- (5) 1名逝去。2年ほど前から余命宣告をされた方の看取りの支援を行う。在宅酸素などを使用しながらも、本人へ楽しい時間を過ごしてもらおう事を心がけた。まだ20代だったこともあり、家族への支援も含めて今までとは違う経験となった。

2-16 下立ハウス

- (1) 利用者1名入院。入居後からの精神的な疲労もあり、精神状態が安定せず本人希望にて休息入院する。7月1名逝去。水や食事が取れない状態となり衰弱し近隣病院に入院となる。入院中の病院にて老衰により息を引き取る。
- (2) 利用者1名の血圧が高く、毎日の血圧測定、定期的な内科受診を行なっている。平日の買い物支援等、利用者が外出する機会を継続して行なった。
- (3) 世話人室を2階へ移動する。
- (4) 1名ハウス内居室移動する。

2-17 生沼ハウス

- (1) 街中にあるグループホームということを生かしてデパートやコンビニなどへ買い物に行くなどして生活している。
- (2) 一名の利用者が就労を目指していたが、今年度は就労に結びつかなかった。引き続き就労に向けた支援を行っている。
- (3) 今年度、新たに一名の利用者が入居となった。

2-18 矢指ハウス

- (1) 利用者個々のニーズを把握し、ニーズに応えられるよう努めた。

- (2) 利用者へ安全な介護を提供出来るよう内部研修を行っていった。また、介助者の身体的負担を軽減するためリフターを使用した。
- (3) 利用者ミーティングを毎月実施し、利用者の要望が言える様努めた。

2-19 小割ハウス

- (1) 内服薬の調整を行い精神状態崩れることなく過ごせた。
- (2) ハウス内では精神的には安定しつつあるが、生活リズムの安定には至っていない。また、外出時等には、予定外の事象で精神的に不安定になってしまう為、毎月の外出については2人体制での支援を継続している。今年度より週に1回日中活動量増やす為、ヘルパー同行し散歩を実施している。
- (3) 目的意識を持って日中活動先に休む事なく通うことが出来た。
- (4) 毎月ケース会議を行い、様々な職種の方と情報共有し、支援を検討していった。
- (5) 外出先で調子崩す事なく実施する事が出来た。

2-20 折戸ハウスⅠ

- (1) 精神症状の悪化により、他住民とのトラブルがないように努めた。しかし、警察対応になる場合があり、関係機関と連携して再発防止に努めたい。
- (2) 利用者それぞれのニーズに対応するように支援を行った。
- (3) 突然の脳の病気により年度末入院した方が1名いた。
- (4) 6月利用者1名が精神科病院を退院後そのままグループホームを退去。自宅での暮らしを開始している。2月利用者1名が警察へ勾留される。その後近隣精神科病院に入院となり、退去となる。

2-21 折戸ハウスⅡ

- (1) ワンルームタイプの部屋を1人で利用するという特性上、利用者が生活上の悩みを一人で抱え込みやすくなってしまう為、利用者とは対話する機会を増やし、本人が悩みを解決できるような環境作りを継続して行った。
- (2) 利用者同士で集まるミーティングを行い、生活上で困っている事や、外出先の検討等を自分達で考える機会を作って対応した。
- (3) 利用者の個別ニーズに対応して、外出同行を行った。
- (4) ご本人の希望により1名退去され、1人暮らしを開始している。

2-22 仲才ハウス

- (1) 近隣との関係性を大切にし、近隣住民の声を聞き、信頼関係を築くように努めた。
- (2) 利用者主体のミーティングや誕生会を行うことが出来た。希望食として月1回刺し身を提供している。
- (3) 利用者の希望により、買い物、床屋などの付き添い支援を行なった。
- (4) 一人一人のニーズに合わせた支援を関係者共々考え、実行に努めており、来年度も同様に行っていきたい。
- (5) ハウス担当職員と世話人との連携を図るミーティングを実施している。

2-23 川間ハウス

- (1) 利用者3名で、新しい地域にも馴染めてきていて、近隣の病院やお店を利用している。
- (2) 利用者の日中活動先として海上療養所ディケアも休まず参加した。
- (3) 週一回の訪問看護ステーション・ソフィアの訪問看護を利用し、病状の変化に対応できる体制が整っている。
- (4) 月一回のミーティングで決める食事会も全員の楽しみとなっている。

(5) 環境整備で、破損箇所を確認したら速やかに対応に努めた。

2-24 上宿ハウス

- (1) ひとり暮らしの新しい生活、地域、環境にも慣れ、大きな問題もなく生活することができた。
- (2) 利用者さんの支援としては、複数の職員が携わり、情報共有して本人の悩み、相談を解決できるような環境作りに努めた。
- (3) 本人の希望でもある、就労を目指していたが今年度中には決めることができなかった為、継続して本人に合った場所を見つけ、アドバイス・提案をしていく。

IV 運営管理の概要

1 会議、委員会

毎月1回、下記の会議、委員会を行った。

- ・経営会議
- ・施設・事業所長会議
- ・法人グループホーム運営会議
- ・世話人会議
- ・各グループホームミーティング
- ・虐待防止委員会
- ・海上寮地域生活支援連絡会（隔週金曜日）
- ・旭中央病院連絡会
- ・地域生活支援連絡会
- ・総合安全対策委員会
- ・海匠世話人会議
- ・海匠設置者会（年2回）
- ・あい支援センター連絡会
- ・聖家族作業所連絡会
- ・ワークセンター連絡会
- ・その他、必要に応じて、ケース会議、調整会議を行う

2 地域との連携（交流）

2-1 行事

地域住民との連携については、野中地区の行事参加やもちつき大会において黒潮会の協力を頂くなど、交流の機会を継続的にもっている。

萩園ハウス	町内会活動（祭り・津波避難訓練）
川間ハウス	町内会活動（祭り）
若衆内ハウス	町内会活動（町内清掃・区民会館清掃等）
野中ハイツⅠ	町内会活動（町内清掃等）
野中ハイツⅡ	町内会活動（町内清掃等）
下立ハウス	町内会活動（町内清掃等）
対馬ハウス	町内会活動（町内清掃等）
大割ハウス	町内会活動（町内清掃等）
矢指ハウス	町内会活動（町内清掃等）
折戸ハウスⅠ	町内会活動（町内清掃等）
折戸ハウスⅡ	町内会活動（町内清掃等）
仲才ハウス	町内会活動（津波避難訓練）

2-2 ボランティア

黒潮会	4名	餅つき
伊藤様（一般）	1名	夕涼み会・餅つき
千葉科学大学	6名	夕涼み会
城西国際大学	5名	餅つき
千葉県立銚子高等学校	3名	夕涼み会

2-3 見学者

- 31. 5.10 利用希望者
- 5.13 利用希望者
- 6. 3 利用希望者
- 6. 4 聖路加国際病院研修医
- 6.25 聖路加国際病院研修医
- 6.27 利用希望者
- 7. 9 聖路加国際病院研修医
- 7.30 聖路加国際病院研修医
- 8, 6 利用希望者
- 9.17 利用希望者
- 1. 10. 2 利用希望者
- 10. 8 聖路加国際病院研修医
- 10.12 城西国際大学見学者
- 10.29 聖路加国際病院研修医
- 11.19 聖路加国際病院研修医
- 12. 3 聖路加国際病院研修医
- 12.10 聖路加国際病院研修医
- 12.13 利用希望者
- 12.18 利用希望者
- 2. 1. 7 利用希望者
- 1.28 聖路加国際病院研修医
- 2. 6 利用希望者
- 2.13 利用希望者
- 2.14 利用希望者
- 2.22 利用希望者

その他、相談事業所、病院関係者、グループホーム利用希望者等に対して、随時見学案内を行った。

3 防災、緊急時の対策

3-1 総合安全対策委員会

毎月の重点項目について、世話人会議・各ハウスミーティング等で、委員会から配布された資料を配布するなどして周知を行った。

各グループホームでの避難訓練について、世話人会議にて事前に机上訓練を行い、防災訓練後に各ハウスミーティング等にて反省、改善点を話あった。3月の防災訓練では新型コロナウイルスの影響にて外部接触を避ける為、消防署の立ち会い無しで行った。

新型コロナウイルス・インフルエンザや車両事故等について必要に応じて各ハウスへの注意喚起を行った。

3-2 防災訓練・防災対策

- 元年. 6. 12・13・14 全グループホーム防災訓練
- 元年. 9. 4 合同防災訓練
- 元年. 9. 11～14 消防設備点検
- 2. 3. 9・11・12 消防設備点検
- 2. 3. 16・17・18・19 全グループホーム防災訓練

4 福祉サービスの向上

福祉サービス共通基準の自己評価を全職員が実施した。

福祉サービス共通基準の評価においては、全てA評価であったが、職員行動規範チェックリストにおいて、「利用者の入浴、衣類の着脱、排泄、生理等は同性介助を原則とする。」の項目が低かった。男性職員の採用数を増やす事はしているが、求人が思うように集まらない状況が続いている。

5 権利擁護

虐待防止委員会を継続的に運営し、利用者メモの確認やヒヤリハット及び事故報告書の内容を確認している。前年度より導入開始した利用者メモについて、各ハウスより日々上がってくる報告内容が利用者メモに反映されていないことがあった。虐待防止委員会にて原因を考察し利用者メモの取り扱い方法を変更している。

6 苦情解決

苦情受付・解決件数 1 件

折戸ハウス I 近隣企業とのトラブルについて 1 件

7 情報公開

ホームページの開設を行い、随時更新を行った。

8 職員の動向

8-1 職員の異動

採用者 5 名 異動者 2 名 退職者 4 名

3	1.	4	林 康大	異動
3	1.	4	石橋 弥生	異動
1.	6	牛腸 綾子	採用	
1.	7	吉田 純子	退職	
1.	7	宇井 美代子	退職	
1.	8	山田 秀幸	採用	
1.	9	柏山 綾花	採用	
1.	10	松渕 ヤス子	退職	
1.	3	伊藤 憲伸	採用	
1.	3	小山 楓	採用	
2.	3	古川 恵子	退職	

8-2 休暇等の状況

	人数	年間発生日数	取得日数	平均取得日数	取得率 (%)
常勤職員	13	235.0	144.6	11.1	61.5%
(昨年度)	(12)	(215.0)	(119.5)	(10.0)	(55.6%)
非常勤職員	32	435.0	355.1	11.1	81.6%
(昨年度)	(31)	(474.0)	(385.5)	(12.4)	(81.3%)
合計	45	670.0	499.7	11.1	74.6%
昨年度	(43)	(689.0)	(505.0)	(11.7)	(73.3%)

働き方改革関連法の施行に伴い、年次有給休暇の年間5日取得が義務付けられた。定期的に各職員の取得状況を把握し、計画的な取得を促すことで、常勤職員では昨年度から5.9%増の61.5%となり、2年間では13.1%の上昇が見られた。

また、非常勤職員においては引き続き8割を超える取得率を維持することができている。制度化をきっかけに、これまで以上に有給休暇を取得しやすい環境づくりと適正な管理に努めていきたい。

8-3 衛生管理

全職員を対象に0-157の保菌検査及びインフルエンザの予防接種を行った。これらのことについては次年度以降も継続して実施していきたい。

8-4 研修

- 31. 6.15 交通安全講習会
- 6.24 世話人会議「生活習慣病予防と食事」
- 9.16 第34回千葉県障害者グループホーム講座
- 11. 9~10 第16回日本グループホーム学会全国大会 in 東京
- 10. 31 世話人会議「精神障害について」
- 12. 7 障害者週間行事
- 1. 25 千葉県障害者グループホーム大会
- 1. 26 世話人会議「利用者の高齢化への対応」

9 補助金

東京都共同生活援助加算（江東区）	1,076,740円
東京都共同生活援助加算（渋谷区）	721,020円
東京都共同生活援助加算（目黒区）	600,240円
障害者グループホーム運営費補助金（16市町）	12,255,930円

10 自立支援給付費収入額

訓練等給付費収入	189,854,080円
特定障害者特別給付費	10,003,615円
合計	199,857,695円

1 1 寄附物品（敬称略）

	寄附者	寄附内容
1	加瀬 ハルミ	米（40kg）
2	石橋 啓子	米（30kg）
3	中沢 和則	米（5kg）
4	有限会社ユーシン電設 平野 武裕	米（30kg）
5	根本 富美子	米（10kg）
6	飯島 憲治	現金（5000円）

V 資料

別紙1 職種別職員一覧表（令和2年3月31日現在の職員数）

別紙2 組織図（令和2年3月31日現在の組織図）